

〈特集〉広げよう平和への想い

平和への取り組み

問い合わせ 人権・男女共生課 ☎38-2055

市内にある平和のシンボル

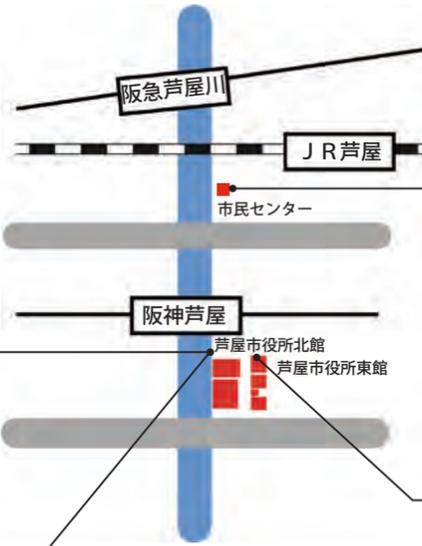


平和のモニュメント

悲惨な戦争を二度と繰り返してはならないことを後世に伝え、恒久平和を願う「平和モニュメント」を市民が主体となって、平成12年11月(市制施行60周年)に市役所北館前広場に建設しました。

非核平和都市宣言銘板

芦屋市議会が「非核平和都市宣言」を決議してから30周年を記念して、平成27年10月(戦後70年)に市役所北館前広場の花壇に設置しました。



被爆75年を迎える広島・長崎では、原爆死没者の慰霊と平和祈念の式典が行われ、黙とうがささげられます。市民の皆さんも、1分間の黙とうにご協力をお願いします。

広島原爆忌 8月6日 8時15分
長崎原爆忌 8月9日 11時2分

優愛の鐘

平成14年から始まった「平和の鐘を鳴らそう」行事では毎年8月15日に市民センターの玄関横に市民が集い、『優愛の鐘』を鳴らし、戦没者への追悼と平和への祈りを捧げています。



被爆樹木アオギリ二世

平和への願いを込めて、平成29年5月に市役所東館北側緑地に苗木を植樹しました。次世代へ平和の尊さを伝えるシンボルとして成長し続けています。



平和の鐘を鳴らそう！

心の中に平和の砦(とりで)を—

戦後75年という月日が経ちました。戦争の惨禍を二度と繰り返さず、平和への貢献を提唱して誕生したのが「ユネスコ」です。

ユネスコ憲章の前文に、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」との言葉があります。芦屋ユネスコ協会では、毎年終戦記念日に当たる8月15日に、芦屋市と教育委員会と共催で「平和の鐘を鳴らそう」の行事を実施してきました。

市長をはじめ協会会員や市民の皆さんが集い、「平和宣言」を唱和して正午のサイレンに併せて黙とうを捧げ、一人一人が戦争のない平和への祈りと願いを込め「優愛の鐘」(芦屋市婦人会寄贈)を打ち鳴らします。式典後は、戦時中の生活の悲惨さを思い出しつつ、すいとん・ふかし芋・おにぎりを食べながら、戦争の記憶や戦中・戦後の体験を語り継ぐ催しです。今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、式典のみになりました。

戦後75年が経過し、戦争の記憶を後世に語り継ぐことが年々困難になってきています。そこで、皆さんの貴重な体験談を芦屋ユネスコ協会にお寄せください。皆さんの記憶を、今後も大切に語り継ぎたいと願っています。

- 日時 8月15日(土)午前11時45分
 - 会場 市民センター
 - 内容 みんなで「平和宣言」を唱和し、正午のサイレンに合わせて黙とう。「平和への祈りと願い」を込めて、平和の鐘(優愛の鐘)を鳴らします。
- ※おにぎり・お茶(75人分)をご用意しています。

問い合わせ 芦屋ユネスコ協会事務局
☎38-2091/FAX38-2072

絵本で育む平和の心

NPO法人「絵本で子育て」
センター
熊懷賀代さん



読み聞かせで学ぶ

NPO法人「絵本で子育て」センターは、子育て中に親子で共に絵本を読む楽しさ、大切さを語り伝える活動をしています。

大好きな人の声で絵本を読んでもらうのは、心安らぐひとときです。短い時間でも、一緒に絵本を開いて心から笑ったり心を揺さぶられたりすることは、生きる力を育むでしょう。

心ない言葉は、人の心を深く傷つけます。情報の媒体が様変わりして争いの形も変わる中、温かく相手を思いやることや思慮のある言葉を伝える力が求められています。絵本には、そんな時代の明るい光となる確かな力があります。

絵本を通して、わくわくする楽しさや寛ぎを味わうだけでなく、戦争、核、人権、そして平和についても考えることができます。芦屋市の「たゆまぬ平和への歩み」展では、読み聞かせや百冊余りの絵本の紹介を行ってきました。

子どもたちの幸せと平和な未来を願う世界中の絵本作家によって、心を込めて綴られてきた絵本たち。絵本には、想像力をかきたて、世界の美しさや、そこに生きる人々の命の尊さを伝える不思議な力があります。



だからこそ、幼い心にも確かに届いていると思うのです。

自分やまわりの人、遠く離れた人々をも心から大切に思い、見えないものを大切に感じる生き方こそ“平和”ではないでしょうか。